

核抑止論「軍縮を阻害」

禁止条約会議、宣言草案あす開幕

【ヨーロッパ共同】兵器禁止条約第2回締約国
会議が採択を図る政治宣
言の草案が24日、判明した。

核抑止論への固執は「不拡
散義務と矛盾する」だけでなく
、「核軍縮の進展を阻害し
ていて」、「正当性を否定し
ていて」、「検証可能で
ない」と正當性を否定し
ていて、「核廃絶が急務
だ」と訴える。

核保有国の軍事ドクトリ
ンなど「核兵器の重要性が
増してこそ」、「質・量と

もしに増強され、脅威が高ま
つてこると」、「核使用のリ
スクは「深刻化している」
と指摘。核禁止条約の強化
に向け、被爆者や非政府組
織（NGO）など全での当
事者に一層の「積極的な関
与」を促した。

草案の表題は「核兵器禁
止の支持と破滅的な結果回
避への決意」で、核が「一度
と使われない」とを保証す
る唯一の手段は全面的な廢
絶と強調。核廃棄の検証な
どの議論も深め、会議最終
の威嚇に基づく核抑止論は
「核に偽りの信頼感を与える
脅威を高めている」と警告
した。

日本は米国の「核の傘」
に依存しているが、草案は
非核保有国への拡大核抑止
もリスクを高めると警戒感
を示した。